

Vol.225 2020 11月

会長のひとりごと
【住宅】

『100年住宅』と『100年保証住宅』

アサヒグローバル株式会社 代表取締役会長
ゴールドトラスト株式会社 取締役会長
ゴールドエイジ株式会社 取締役会長

文/久保川 義道
Yoshimichi Kubokawa



全ての「会長のひとりごと」がWEBで読める!
『くぼかわよしみち.com』毎月20日更新!!



▶asahiglobal.co.jp
●super-chintai.com
●goldtrust.co.jp
●otona-souzoku.com
●goldage.co.jp
●kubokawayoshimichi.com

くぼかわよしみち.com

検索

その証拠は日本の住宅の耐用年数が平均27年だということです。アメリカの住宅の耐用年数は103年。イギリスは141年、ドイツは79年。日本の住宅だけ

難しいのです。昔の家だと通気が良くて夏暑く冬は寒い家でしたが、今の家は断熱性や気密性があり過ぎて、木の柱が空気に触れることがありません。それが壁の中や床下で結露して木が湿気を吸うと住宅は100年持ちません。だから100年住宅はもの凄く

難しいのです。昔の家だと通気が良くて夏暑く冬は寒い家でしたが、今の家は断熱性や気密性があり過ぎて、木の柱が空気に触れることがありません。それが壁の中や床下で結露して木が湿気を吸うと住宅は100年持ちません。だから100年住宅はもの凄く難しいのです。昔の家だと通気が良くて夏暑く冬は寒い家でしたが、今の家は断熱性や気密性があり過ぎて、木の柱が空気に触れることがありません。それが壁の中や床下で結露して木が湿気を吸うと住宅は100年持ちません。だから100年住宅はもの凄く

『日本住宅』『世界住宅』はもうだいたいの完成しました。ですから今は全力でこの『100年』と『100年』に挑戦しています。こういうことを飽くなき挑戦というのでしょうか…。難しいことに挑戦するのが好きですし、人ができないことでオンラインワンマンパーワンになれば、私はゾクゾクするほど嬉しくなる性格のようです。

が何故これだけ短いのでしょうか。法隆寺の木造建築は築1400年以上なのに、どうして日本の木造住宅だけがこんなに短いのでしょうか…。

大きな理由は2つです。①戦後に建てられた住宅があまりにも粗悪品だったこと。今建てる住宅はもう粗悪品ではないので、27年で使えなくなることはありませんが、100年間大丈夫ですとは言えませんね。②の理由はやはり湿度です。アメリカもイギリスもドイツも日本の湿度より低いですが、ヨーロッパの石やレンガの住宅とともに、木造の家でも100年の耐用年数があつて丈夫な建物です。やはり日本の家は湿度対策が重要となります。

もうずっと社内の設計工事会議で私はこの『湿度』と『白蟻』の話ばかりしています。なんとか完全に解決しないと『100年住宅』はできませんから、私は必死なんです。少し見えてきましたから、なんとか年内には決着をつけて設計施工の方針を決定したいと考えています。

そして次の『100年修繕保証住宅』を発表したいのですが、この木造の100年住宅が完成しないと、この保証住宅もできません。私は建てさせていたかった住宅を100年間保証して、家族に安心した生活をしていただきたい気持ちなのですが、100年と言っても気の遠くなる程

の長い年月となります。そしてこれはもう1つ別の考えがあるのですが、完成して引き渡した住宅のユーザー様(お客様)と100年間お付き合いしたいと考えているからです。私はもうすぐお亡くなりになります。若しご夫婦も100年の間には代が替わっていますね。それでも住宅の建築物件だけは100年間生きている訳です。そしてそこにお子様やお孫様がお住みなのではないでしょうか。(ローンのない住宅に長く住み続けると生活は豊かになります。それが欧米の考え方で、だから幸せなライフスタイルの基本は住宅だと考えられています。)

そして私共の会社も100年存在しなければなりません。でないと100年間の住宅のお世話ができませんね。私達がやりたいことは『100年修繕保証』です。修繕はリフォームではありませんし、施工ミスを直すことではありません。住宅という建物はいくら完全に施工しても『経年劣化』がありますから、100年間で何回も修繕しなければなりません。これが私の言う修繕を100年間保証することです。

さて100年間でその修繕の費用もたくさんかかりますから、それをどうするかですね。私にはアイデアがありますのでご安心ください。次回にお話しさせていただきます。

さて100年間でその修繕の費用もたくさんかかりますから、それをどうするかですね。私にはアイデアがありますのでご安心ください。次回にお話しさせていただきます。

わくわく

夢

ニュース【住宅】

2020

11月

No.225

映画のワンシーンに出てくるような
リゾート地にあるペンタハウス

広いお庭と手すりのラインが印象的でオシャレなウッドデッキ。
ご夫婦の積極的なご要望をカタチにすることができました。
夢のお家づくりのお手伝いをさせていただきます。ありがとうございました。

